

UBC プログラム参加者体験談

R Yさん 大学3年生 女子

期間:カナダ ブリティッシュコロンビア州 バンクーバー滞在 University of British Columbia

参加プログラム:UBC English for the Global Citizen 2015.8 月

●English for the Global Citizen プログラムについて

◇午前中に行われる市民社会、国際性、持続可能性に関する問題の授業について

午前の授業は、資料を読んでディスカッションをするというのが主な内容でした。例えばファストフードについて、ファストフード賛成派と反対派に分かれてディベートを行うというような感じです。午後の授業よりも、英語の文章や単語を学んだり出来ました。私の担任の先生は毎日、"Today's expression "とって、ネイティブが使う短い会話の文章などを教えてくれました。とてもためになりました。

午前の授業では、キャンパス内の UBC 人類学博物館(UBC Museum of Anthropology)に行き、原住民の暮らしやトーテムポールが意味する物について学んだり、キャンパス内にある UBC farm に出かけて、地産地消や UBC farm が行なっている研究や野菜の育て方などを学びました。

また、クラスのみみなでバスに乗って、カフェに朝ごはんを食べに行き、そこでディスカッションを行ったりもしました。和やかなムードで授業が出来て、その日はとても楽しかったです。

午前の授業と午後の授業はテーマが一致はしていないものの、相互的に関係するテーマが出されるので、午前の授業は午後の授業の参考になったりもしました。登校最終日には、その日の午後にある Open House というちょっとした卒業式の前行なうゲームの準備を、午前の授業のクラスでしました。今までの授業で自分たちが学んだことをグループごとにクイズにして、他のクラスの人や関係者の方々に楽しんでもらいました。

◇午後のプレゼンテーションやプロジェクトを中心とした授業について

とても勉強になりました。3 週間のプログラムの中で、プレゼンテーションを合計 3 回行いました。

第 1 回目はカナダ(バンクーバー)の地域性などについて、自由にテーマを決め、実際に授業時間内に教室を出て UBC のキャンパス内にいる学生などに英語でインタビューをしに行くというものでした。英語で質問をするのは難しかったです。質問を作る過程とインタビューの内容をまとめる過程は、先生がきちんとチェックして、手を貸してくれました。その後プレゼンテーションをパソコンのアプリを使って作るのですが、最初は要領も分からず、プレゼンテーションの仕方も、英語での文章のまとめ方も分からず、戸惑いました。また、プレゼンテーションは大体がペアで行うものだったのですが、相手が外国人の時は意思疎通が難しかったです。

第 2 回目は、オーガニック食品とそうでないものを比べるのがテーマで、実際に授業でバンクーバーでも有名なオーガニックスーパーWhole Foods Market と、普通のスーパーSafe way に行きました。店員の方が店内を説明してくれました。私は、双方の商品の値段の比較や、店内の食品の配置の違い Whole Foods Market の工夫などをプレゼン内容にして、自分で撮った写真などを使ってプレゼンテーションしました。第 2 回目は、画用紙に自分たちのプレゼンテーションの内容を書いて発表する形態で、また、第 2 回目以降、もうひとつのクラスとの

合同発表になりました。2回目には、要領が掴めていたので、いいプレゼンテーションになったと思います。

第3回目は、有名企業などのコマーシャル動画から、その動画を皮肉的に解釈して自分たちのパロディ作品を作るというものでした。私は車のFord会社のCMを選びました。動画編集にはパソコンのアプリを使用し、動画を切ったり、繋げたりの編集で文字を入れるだけでもいいし、声を吹き込むのもOKで、また自分達の動画を撮って、元の動画に付け足すということもでき、自由に制作できました。第3回目は3人グループで、わたしのグループは自分たちの動画を撮りました。キャンパス内で撮影したのですが、人がたくさんいたので少し恥ずかしかったです。とてもいいプレゼンテーションになりました。パソコンは持って行かなくても学校のパソコンが使えるので大丈夫でしたが、家に帰ってから制作しようと思う場合、ないと不便でした。

単に学んだ内容を発表するだけでなく、実際に色んなところに足を運んで、グループで一つひとつのプレゼンを作り上げるという感じだったので、大変でしたが達成感もありましたし、何より人前で英語で大きな声で話すということに慣れることができました。とてもいい経験でした。

◇プレゼンテーション作りで出かけた場所について

- キャンパス内
- Whole Foods Market
- Safe Way

●滞在先について

◇滞在全般

ホストファザーとホストマザー2人だけのお家でしたが、私と同じように留学や働きに来ているホームステイの住人が私以外にあと5人もいて、話す機会があって楽しかったです。同じUBCの英語プログラムに通っている中国人のお姉さんもいたので、とても仲良くなり、一緒に登下校をしたりできました。その人と家でも夜遅くまで話し、お互いの英語の勉強にもなりました。家の中にはホームステイしている学生に対しての注意書き(ルールが書いてあるもの)が、あちらこちらに貼ってあり、分かりやすかったです。

ご飯は、朝は自分で勝手にキッチンのパンやシリアルを食べ、昼は毎日ホストマザーが朝サンドウィッチを作ってくれたものを学校に持って行き、夜は用意してくれました。それから、部屋にそれぞれバスルームがついていたのが便利でした。

◇滞在先でホストとの交流

ホストファミリーはフィリピンの方達で、英語に訛りがあり、少し慣れるまで聞き取りにくかったです。他のホームステイ先の友達も、ホストファミリーがフィリピン人だったり、中国人だったりしたようです。私のホストファミリーは、週末どこかに連れて行ってくれたりということはありませんでしたが、とても親切に家族のように接してくれて、いい思い出になりました。

●正規学生や他の留学生との交流について

私のクラスは5人が外国人、8人が日本人のクラスだったので、日本人の留学生達とはもちろん、外国からの留

学生達とも交流することが出来ました。

また、違う4ヶ月のプログラムの人達などとも交流する機会があり、たくさんの人と仲良くなれました。交流するためには積極的に話しかけることを心がけました。また、みんなで放課後どこかに行こうと提案してみたり、誘われた時はほぼ断らずに出かけて交流を深めました。日本人で固まってしまうようにも心がけていました。

●週末のアクティビティーやオプションツアーについて

週末のビクトリアツアーが大変人気でしたが、私は参加しませんでした。

●平日のクラス終了後のアクティビティーについて

私はパドルボーディングのアクティビティーに参加する予定でしたが、天候が悪く中止になってしまいました。もし天候が良ければ、楽しい体験が出来たと思います。パドルボーディングのアクティビティーに参加するには、水着とその上に着るウェア上下の持参が必要でした。

●その他フリータイムの過ごし方

放課後はほとんど毎日、友達とバンクーバーの観光地に出かけました。Downtown, Gastown, Canada Place, Kitslano Beach, Granville Island, Queen Elizabeth Park, Stanley Park などです。個人的には、Canada PlaceのFly Overという映画館のようなアトラクションがお気に入りです。2回も行きました。バンクーバーの様々な景色の中で、実際に空を飛んでいるような体験をすることが出来ました。

Granville IslandのPublic Marketも色々な食べ物が置いてあって、買い物を楽しむことが出来ました。



Canada Place

●UBC 施設利用について

nest と呼ばれる新しい建物を利用しました。中にはたくさんのレストランやカフェなどがあり、お昼に利用したりしました。

また、UBC bookstore というお店で UBC パーカーを買ったり、ノートなどの文房具を買ったりしました。UBC farm と UBC 人類学博物館には、午前の授業で訪れました。



UBC キャンパス



UBC キャンパス



UBC キャンパス



English Language Institute

● **現地に到着してから、「日本から持っていけば良かった」と思ったものについて**

ヘアアイロン、厚手の衣類(思っていたよりも寒かったのだ)。それから、もう少し服を多めに持っていけばよかったなと思いました。ホームステイ先での洗濯が、週に1回でした。

その他の物は、だいたい向こうでも調達出来ました。また、帰りに荷物が増えた時用に、別の旅行用バックを持って行くといいと思います。

● **プログラム参加後の感想・思い出**

一番の思い出は、いろいろな国の人達、いろいろな年齢層の人たちと交流し、一緒に時間を過ごし、友達になれたことです。普段日本で暮らしていれば、絶対に体験することの出来ないことだと思います。今回出会った人との交流は、これからも続けて行こうと思います。国が違って、英語で何とか伝えようと頑張れば、相手も理解してくれて交流することが出来るのだと、改めて感じ、感激しました。

本当にありがとうございました。